

錦秋の風景を愛でつつ、カフェやランチに、温泉を楽しんで、心癒やされる一日を。

# キャレル 11

CARREL

2024 Vol.367  
定価 700円

新潟をもっと楽しみたい大人たちに

感謝の気持ちを  
込めて

創刊32年  
読者  
プレゼント

| 巻頭特集 |

## 大人のための

# 日帰り紅葉旅

秋の彩りと味わい、  
温泉でほっと一息

| 特集 |


朝までぐっすり

## キャレル世代の快眠術

| インタビュー | CARREL FOCUS

## 大島 輝久さん

喜多流能楽師



CARREL  
FOCUS

キャレルフォーカス

喜多流能楽師

大島輝久さん

PROFILE

1976年広島県福山市生まれ。100年以上の歴史を持つ喜多流大島能楽堂を受け継ぐ大島家5代目。喜多流の若手として国内外の公演で活躍するほか、手話能、VR能、3D能といった画期的な公演への出演および企画制作にも取り組んでいる。

今年12月8日、リューとぴあ新潟市民芸術文化会館で「手話で楽しむ能狂言鑑賞会」が開催される。コソセプトは「聞こえる人も、聞こえない人も一緒に楽しむ能狂言」。新潟初上演となる「手話能」の創作において、その中心になって取り組んできたのが喜多流能楽師の大島輝久さんだ。手話能が誕生した背景や、その魅力、さらに新潟での思い出などについて話を聞かせていただいた。

### まずは手話能、手話狂言について 教えてください。

手話狂言は40年近い歴史があります。黒柳徹子さんが著書『窓ぎわのトッチちゃん』の印税で、耳の不自由なろう者の方々のプロの演劇団体・日本ろう者劇団をお作りになったのですが、その活動の一環で始められたものです。狂言師の三宅右近先生が指導なさっていて、国立能楽堂での定期公演や海外公演も行い、国際的にも高く評価されています。

恥ずかしながら、私自身はこの活動を10年ほど前まで全く知りませんでした。われわれが所属する喜多流の能楽堂を運営する喜多財団が公益財団法人になり、地域に根ざした公益的な公演にも目を向けていこうという方向性を打ち出した中で、喜多能楽堂の清水言一館長が「手話狂言を上演できないか」という話を始めました。そこで、まずは観てみましょうと、国立能楽堂での公演に足を運んだのですが、あまりの

レベルの高さに圧倒されました。演じていらっしゃる方は全員ろう者で、発声はせずに台詞を全部手話でやりまします。そこに右近先生率いる三宅狂言会のプロの狂言師が、放送室からアテレコをするのですが、このコンビネーションもすごい。それで、ぜひ劇団をお招きして公演をやりましょう、ということになりました。

その公演で喜多流としては何をやるうかとなった時、手話はとてもできないので、手話同時通訳能をやってみることにしました。舞台上に手話通訳者

### そこから手話能へと進化していく のです。

何度か重ねるうち右近先生から「大島君、君たちシテ方（主役）の立役も手話をやってみたらどうだい？」と言われたんです。さらに「立役の言葉がたたくさんあるのは難しいだろうから、台詞が少なく動きの多い『土蜘蛛』はどうだろうか」とご提案もいただいて。それで挑戦することになり、2021年に初上演しました。ただ、能には地謡という、いわばコーラス隊が謡う場面があるのですが、そこはまだ同時通訳の状態でした。その形で2回ほど上演した後に、右近先生から「立役も、舞台上下の通訳者も手話をすると観客の目

線が騒がしくなるから、手話通訳者を出さないやり方を考えてくれないか」と言われたんです。さて、どうしようかと思いました。

「土蜘蛛」は、源頼光という武将が原因不明の病で苦しんでいるところに、召使いの胡蝶が薬を届けにくるのが最初の場面です。体が全然良くならず、心が弱っている頼光がじっとして、地謡がその心情を謡うのですが、考えるうちに「これは地謡が謡っているけれど頼光の心情を代弁しているのだから、この場面は頼光の立役が手話をすればいいんだ」と思ったんです。そうやって地謡の場面も立役が手話をやることによって、手話能完全版というものが2022年に出来上がりしました。最初に「土蜘蛛」を手掛けた時から再演を続ける中で少しずつ進化してきて、今、一つの完成形ができたのかなと思っています。



手話と能の型は立脚点と同じ。  
それゆえに親和性が高いのです。

——普段の能と、心持ちは違うもので  
すか？

「心持ちに違いはありますが、ただ、能には型という全てきちんと決められた動きがあるのですが、実はそれらは変えることなく全てやっています。型や動きは、役者が謡を謡っていない時に行うことが多く、逆に謡を謡っている時は動きが止まっていることが多い。その動きが止まっていたところに手話を入れるので、従来ある型を省略しなくてもいいんです。私としては型を崩しているのではなく、型が増えた能をやっているという意識ですね。」

手話も、能の型も、基本的には人間の気持ちや、伝えたい表現を一つの様式に落とし込みます。例えば「しおり」という、手を顔の前に掲げて目を覆うような動きは泣く所作、悲しみの表現です。これを小学生に見せて「何を表現していると思いますか？」と聞くと、「まぶしい」とか「恥ずかしい」と言う子もいます。それは全くおかしいことではないのですが、能ではこれを悲しみの表現と決めていて、それを分かって観ていただくことによって初めて、この役はいま悲しんでいる」ということが共通の理解となります。手話は、これと全く同じ形でできているんです。能の型と手話の立脚点が全く同じだから、親和性が高いんだと気付きました。私がいままで携わったコラボレーションの中で

は、一番違和感なくできるのが手話と  
のコラボレーションだと感じています。

——手話を作る時に大変だったことは？

能には一つの言葉に二重の意味がある掛詞かまじのような表現がよく出てきます。「土蜘蛛」では、私が演じる土蜘蛛の精が頼光の屋敷に忍び入るとき、その瞬間に月に霧がかかり、だんだん曇っていく様で怪しさを匂わす謡があります。

## 能の謡を知らない方も、手話によって 立体的に内容を理解できるのではないかと思います。



手話能「土蜘蛛」 撮影：前島写真店

この雲霧には、月にかかる「雲」と、土蜘蛛族の「蜘蛛」が掛かっているのですが、さて、それを手話でどう表現しようかということになりました。手話は、日本ろう者劇団代表の江副悟史さんに作っていただきました。蜘蛛の手話は手の平を下にして親指同士を付けて、他の指を蜘蛛の脚のように動かします。空に掛かる雲は親指と人さし指で楕円だえんを作って上に掲げる感じでした。江副さ

んは「それなら、蜘蛛の動きをしながら掲げていけば、蜘蛛と雲が同時に表現できる」とおっしゃって。掛詞を手話として昇華させる、その能力の高さに驚きました。江副さんには「手話が突出して見えないような、なんとなく能の型に見えるようなものを作ってもらえないでしょうか」と、僕から唯一のお願いをしたのですが、この雲・蜘蛛のように一つ一つの意味をイメージとして伝える手話を作ってくださいました。

——手話を知らなくても伝わりそうな  
表現ですね。

能の謡は、耳の聞こえる方がご覧になっても一回では聞き取れないと思います。歌というものは一文字一文字が伸びたり縮んだりしますし、現代でも英語が入ったり、ラップが入ったりしてなかなか聞き取れませんよね。でも、好きな人は理解したいので自分で意味を調べます。能も見方としては同じですが、今回は謡を全く知らない人でも、手話によって役者の台詞や謡を立体的に見ることが出来ます。コンセプトにしている「聞こえる人も、聞こえない人も同時に楽しんでいただける能」というのが、実現できるのではないかと考えています。

——その手話能を、今回は新潟で見られます。

地方での上演は、私の実家がある広

島県福山市の大島能楽堂でやっただけで、東京以外でさせていただくのはそれに次ぐ2回目になります。しかも、今回はりゅーとびあさんがオフアールをしてくださいました。ありがたい機会だと思っています。

### 解説の時間も設けてあります。

解説付きの公演は近年非常に増えてきましたし、手話公演の時には必ず行っています。能は観る人の感性に訴えるところがあって、祖父の世代は「解説は野暮」という考えでしたが、今は求められる時代になったと思います。伝統芸能は特有のルールが非常に多く、それを知らずに見ると何をしているのか全く分かりません。われわれが解説で目指しているのは、そのルール説明ですね。野球ならば、打ったらまず一塁方向に走るんですよ、といった

ことを解説でお伝えしています。

### りゅーとびあにはどんな印象をお持ちですか？

りゅーとびあに来させていただくようになって20年近くになると思いますが、スタッフの方々に非常にお世話になっていきますし、観客の方々はわれわれが本当の若手だった時期から見えてきたように、新潟の皆さんに育てていただきますね。こちらの能楽堂の設備は全国屈指で、本当に素晴らしいと思います。若い頃、当時の館長さんから「新潟のお酒の飲み方をお教えいたしません」とご指南いただいたこともありまして。新潟は甘口から辛口までお酒があつて、最近では皆さん辛口を好まれるけど、お酒というのは甘さにうまみがある。ただ、飲んでみると次第に甘つ

たくなってくるから、最初に甘口を飲んで、だんだん辛口にしていくとおいしく飲めていい、と教わりました。すぐく印象に残っていて、今でも日本酒を飲む時の自分の約束事になっています。ただ辛口を飲む頃にはだいぶ酔いも進んでいて、教えが十分に生かされているのかは分からないのですが(笑)。

### 最後に読者へメッセージをいただければと思います。

伝統芸能は四角四面に決められたことを踏襲するイメージもあるかもしれませんが、常に現代と自分たちのやっていることを照らし合わせながら、いろいろなチャレンジをしています。そのチャレンジの中でも、この手話能は大きな可能性を持っていると思います。伝統芸能の一つの可能性を、ぜひ現場でご覧いただきたいと思っています。

す。実は来年、聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」が東京で開催されるそうで、それに向けて国際手話を取り入れた手話能をやってみようという計画もあります。次は海外の方に対して、手話を使いながら能狂言を観ていただくということができればと思っています。

## 手話で楽しむ 能狂言鑑賞会

～聞こえる人も、聞こえない人も～

開催日時 12月8日(日) 13:00開演

会場 りゅーとびあ 能楽堂

チケット 全席指定:4,000円  
U25:2,000円  
【友の会フレンズ限定価格】  
全席指定:3,500円

■お問い合わせ

りゅーとびあチケット専用ダイヤル ☎025-224-5521

(11:00～19:00 休館日除く)